

日本工営株式会社
2022年12月27日

静岡市のENEOS製油所跡地で次世代型エネルギー供給拠点建設を受注 — EPC事業でエネルギーマネジメントシステムを構築、電力の地産地消に貢献 —

日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：新屋浩明 以下「日本工営」）はこのほど、ENEOS株式会社が静岡県静岡市清水区の製油所跡地に次世代型エネルギー供給拠点を建設するプロジェクト（清水次世代型エネルギー供給プラットフォーム建設工事）のうち、2023年度より始まる2024年度共用開始に向けた工事を受注しました。設計（Engineering）、調達（Procurement）、建設（Construction）の三つの工程を一貫して引き受けるEPC事業として、メガソーラーパネルや大型蓄電池を備えた次世代型エネルギー供給プラットフォーム関連施設の建設およびエネルギーマネジメントシステムの構築に取り組みます。

今般新たに自営線^{※1}を設置し、電力供給を行うエリアの敷地面積は約42,000㎡となり、当社が国内で手掛けるエネルギーマネジメント施設としては最大規模となります。2024年4月（予定）より、地産の再生可能エネルギー由来の電力を周辺の公共施設等に供給できるようになるほか、災害時に自立的な電力供給を敷地内で継続することが可能となり、地域の防災・減災への貢献も期待されます。

■背景および事業概要

日本工営がENEOS社の業務委託を受け、清水製油所跡地に次世代型エネルギー拠点を建設するものです。日本工営は本プロジェクトの基本構想を2020年度に受注したほか、創業時より手掛ける発電・送電施設等の建設および、近年国内外で取り組んでいるエネルギーマネジメントの実証実験等の知見・ノウハウを生かせると考え、本事業を受注いたしました。

2024年度共用開始に向けた工事では、清水製油所跡地の自営線エリアにメガソーラーや大型蓄電池を建設し、近隣の病院や多目的ホールなどの公共施設、併設される水素製造施設向けの電力供給を可能とします。また、大規模停電等の非常時には電力系統から切り離し、自営線エリアで自立的な電力供給を可能とすることで、安定的な電力を確保します。

<運用開始時期>

2024年4月（予定）

<工事等の内容>

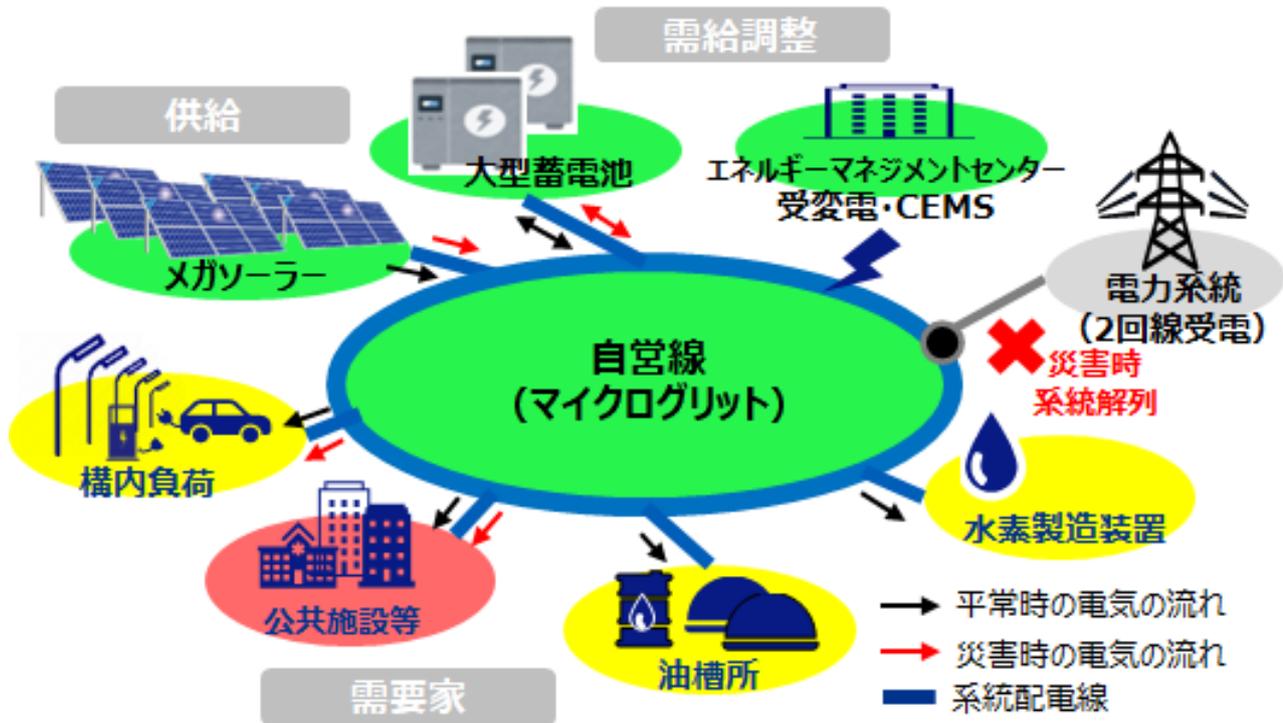
- ・メガソーラーパネルや大型蓄電池の設置、および受変電設備など関連施設の建設
- ・自営線の敷設
- ・CEMS^{※2}（Community Energy Management System）の構築

※設計、調達、造成工事、建築工事等も含まれます。

※一部の業務は日本工営都市空間(株)が請け負います。

■今後の展開

脱炭素社会の実現や災害時の電力安定供給の観点より、エネルギーマネジメント事業への関心は国内外で高まっており、日本工営としては本プロジェクトから得られた知見・ノウハウを他のプロジェクトに生かし、環境問題の解決や、住民の皆さまの安全・安心な暮らしの実現につなげてまいります。



■エネルギー供給システムイメージ

※1…事業者が自ら敷設する電力配電線路。

※2…地域内エネルギー管理システム。予測技術等を用いて地域内の電力需要に応じた分散電源（太陽光発電や蓄電池システム等）の監視制御を行い、地域全体のエネルギーの管理と効率運用を実現するシステム。

ご参考：ENEOS株式会社プレスリリース（2022年8月4日発表）

清水製油所跡地（清水油槽所内遊休地）を中心とする次世代型エネルギー供給プラットフォームの構築について

https://www.eneos.co.jp/newsrelease/upload_pdf/20220804_01_01_1080097.pdf

—お問合せ先—

日本工営株式会社 コーポレートコミュニケーション室

TEL :03-5276-2454 Email : c-com@n-koei.co.jp ホームページ : <https://www.n-koei.co.jp/>